「支援の思いを形にする。」
《西日本豪雨とももたろう基金》

スピーカー：石田　篤史

公益財団法人
みんなでつくる財団おかやま
OKAYAMA Share Foundation

今日はよろしくお願いします！

公益財団法人　みんなでつくる財団おかやま　初代代表理事

石田　篤史

- 1977年倉敷生まれの44歳
  妻　と　男の子三人　中１年、小3年、年少
- 土木技術者　（　Civil　Engineer　）
- H12年～H24年３月まで１２年間、岡山県庁の職員
- 2012年9月にみんつく設立！！2014年8月公益法人！
- プレーヤーを増やす！　SPOxT（スポット）
  得意分野」で「期間を決めて」プロジェクト制で企画実施
- FMくらしき　縁join!!SPOxT　パーソナリティ
- 岡山県観光特使　　等々

みんつくの概要

2012年9月　設立

中四国初のコミュニティ財団

岡山県内27市町村100人の若者の呼びかけによる

530人以上の寄付により設立

2014年8月　公益認定

2016年、2020年　代表交代　現在3代目

【現在】

1000～2000万/年の寄付受付・紹介

10～15件/年の助成(事業指定・冠基金等)

※災害支援　ももたろう基金　をのぞく

資源循環を通じて、取り組みを加速！

「関わりやすい環境をつくり、資源循環を促す」

関わるハードルを下げる

交流会　チャリティイベント

B. 寄付文化創造事業

組織・個人の地力をつける

講演セミナー　ノウハウ移転

C. 情報発信 / 人材育成事業

＼みんつく３つの仕組み／

A. 資源循環事業

市民 / 企業

寄付

情報

地域版クラウドファンディング

基金設立事業

円卓会議

助成

情報

NPO

調査研究　Share会議

D. 調査研究事業

「地域課題を発見・発信する」

ももたろう基金

岡山県内における
平成30年7月豪雨
被災地支援
寄付基金

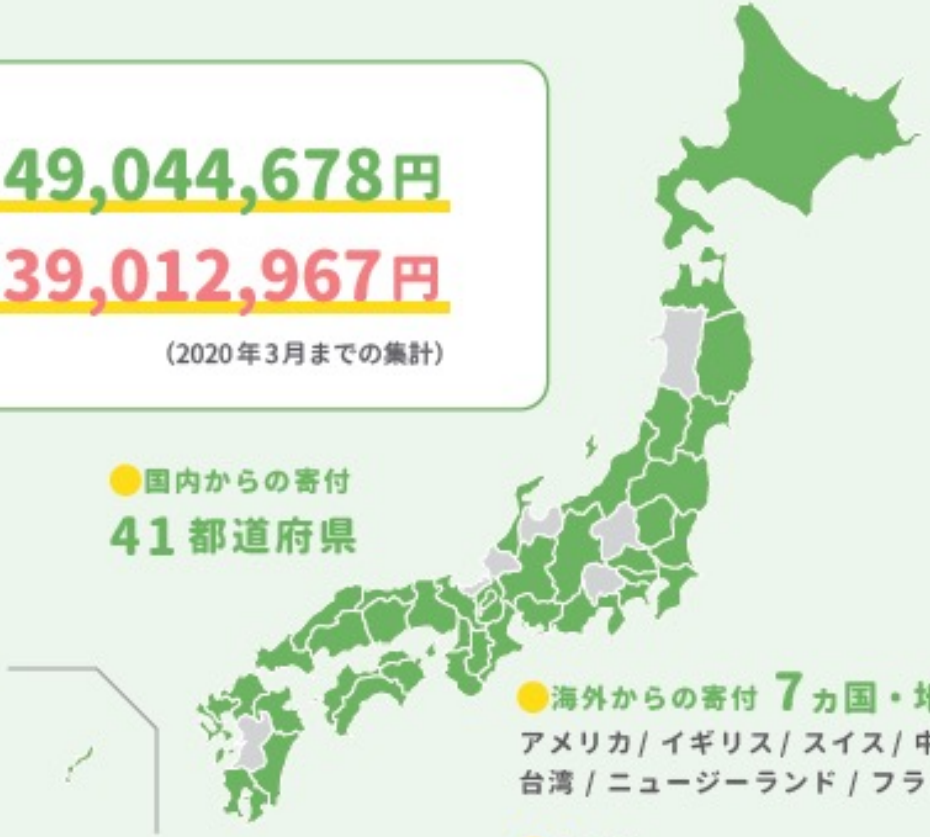
MOMOTAROU KIKIN

「寄付＆助成」まとめ

寄付者676人　寄付額49,044,678円

77プロジェクト　助成額39,012,967円

（2020年3月までの集計）



●国内からの寄付
41都道府県

●海外からの寄付 7カ国・地域
アメリカ / イギリス / スイス / 中国
台湾 / ニュージーランド / フランス

●その他
仮想通貨による寄付
（円に換えて代表者から寄付）

5,112,097円

2018年7月豪雨災害
7月5～7日豪雨発生
7月8日基金設置
7月10日～助成開始

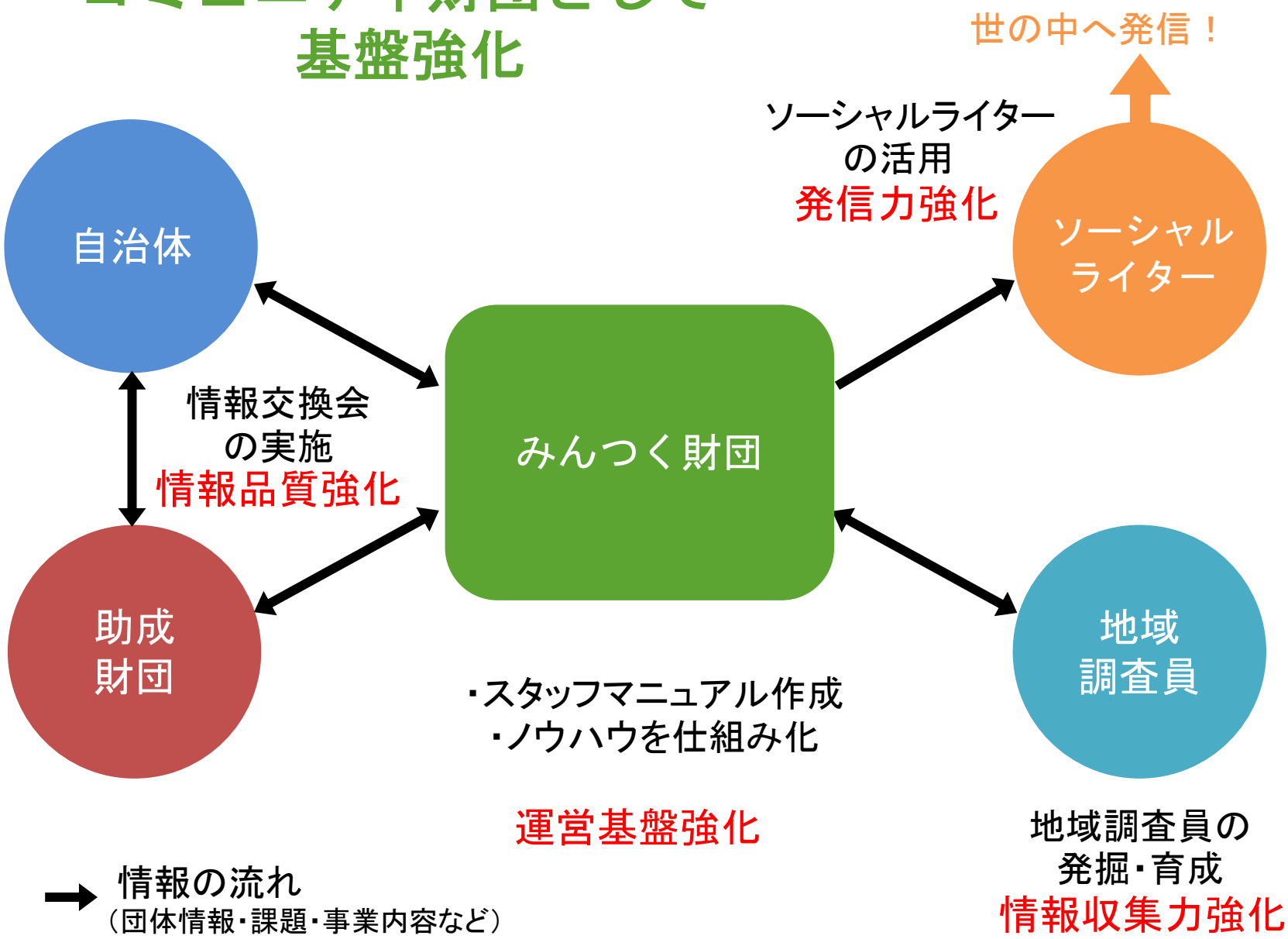
現在第13次助成まで実施
※第14次募集中

ももたろう基金　概要

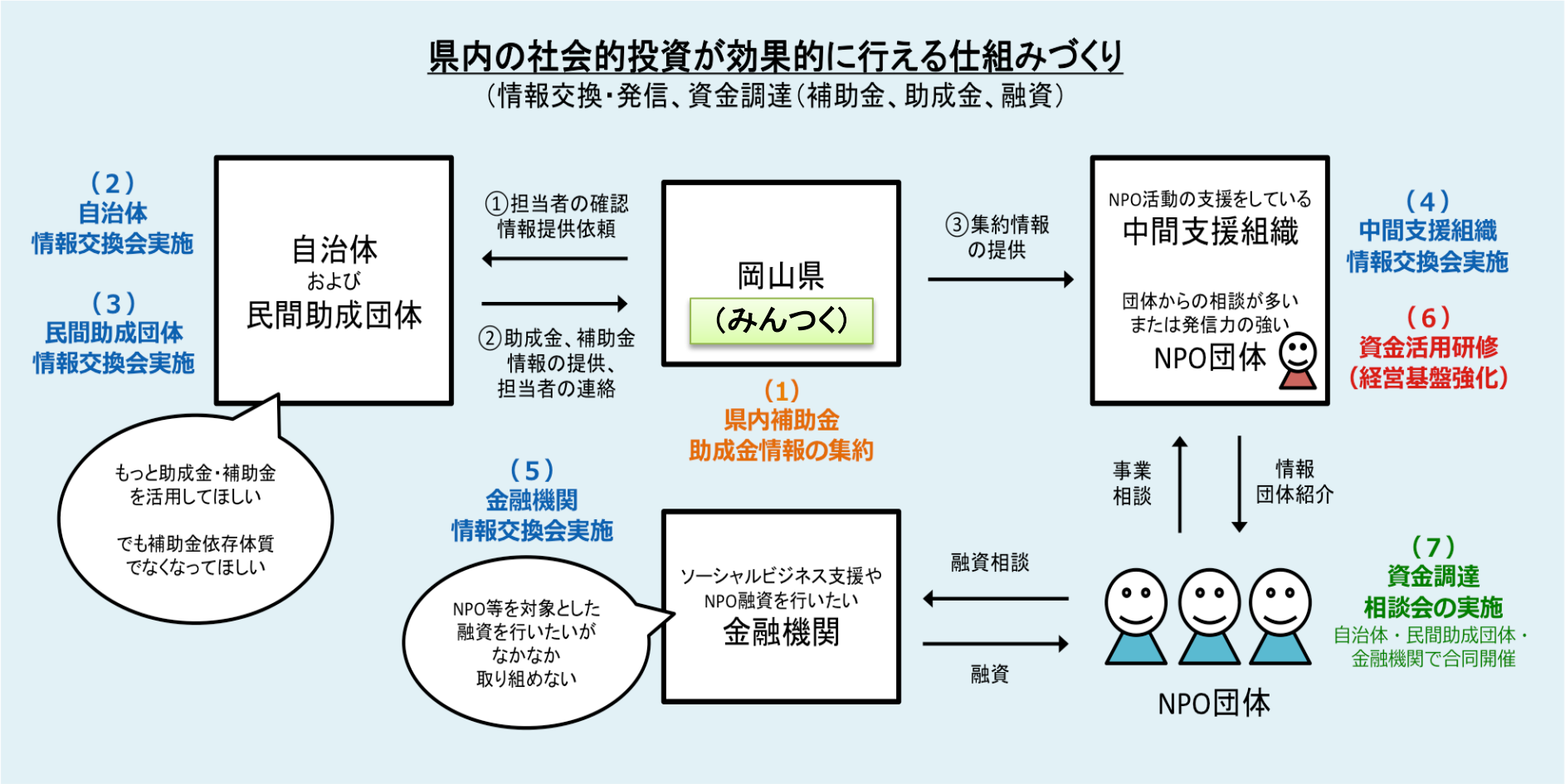
MOMOTAROU KIKIN
ももたろう
基金
①寄付
⑤報告
被災地を応援したい
個人・団体・企業
②助成
④報告
③
支援事業
実施
被災地支援を行う
NPOなど
被災地のニーズ調査
助成テーマ設定
成果や状況の発信

平時の取組

コミュニティ財団として
基盤強化



社会的投資の基盤（情報流通）



平時の取組のポイント

○地域でのネットワークの構築

・他団体との連携（やらないことを決める、餅は餅屋）
・情報収集、調査機能の強化

○システム化と仕組み化

・遠隔地でも取りくめる＋少人数でも取り組める
・業務が増えた時に、外注に出しやすい仕組み

○緊急時・長期的視点をもったルール化

・基金設置、テレビ会議、議決方法のルール

ももたろう基金
概要
（報告書　参照）

助成の仕組みと各団体との連携

地域の団体連携した ニーズ把握と現地調査

助成の流れ

行政ではない、民間の助成財団としての特性を活かし、全体的に必要なことだけでなく、被災地で必要なニーズをひろい、テーマ設定することでその取り組みができる人たちに発信し、助成を実施しました。ニーズ調査には、災害支援ネットワーク会議やボラセンでの情報収集に加えて、実際に現地で活動する NPO の声や被災者の声からテーマを設定して行きました。

STEP1. ニーズ把握

災害支援ネットワーク会議、活動中の NPO 当事者へのヒアリング、現地調査を行い、行政などの情報源をもとに被災地のニーズを把握しています。

STEP2. テーマ設定

STEP 1 で把握したニーズから、
被災地で必要だと考えられるテーマを選定しています。

- 被災者の孤立防止
- コミュニティ形成
- 子どもの居場所

など

STEP3. 助成

助成について、下記のように区分を設けています。(特に最初の 2 か月)

- **LV.1 助成** 既にニーズを把握して対象者とつながっている団体への助成
- **LV.2 助成** 重要なニーズに対して団体をつなげることで助成
- **LV.3 助成** 緊急を要し、特に重要なニーズに対して関係機関を調整し、積極的に私たちでプロジェクトを組成し助成 (右ページ事例参照)

※助成決定を保留にして、ニーズが発生し支援対象者とマッチング出来た時点で助成を行うケースや助成は行わず、ニーズと団体をつなぐだけで事業実施できるケースもありました。

STEP4. 報告・評価

実施した事業の報告と評価を行い、HP での公開など寄付者と社会に発信します。

医師会や行政と連携した事業設計

Lv.3 助成の事例

事例01 真備に医療拠点を維持するため まび記念病院に仮設の診療所を建設

事業内容

地域の基幹病院である「まび記念病院」にて仮設診療所を設置し、医療を継続して提供するための基盤をつくる。真備地区の多くの医療機関が被災し壊滅状態にあるため、吉備医師会がまび記念病院をサポートし、診療体制を維持する事業。

サポート内容

この事業を進めるためのプロジェクトを組成し、事業プランの提案、検討事項の整理、関係者の調整等を行いました。

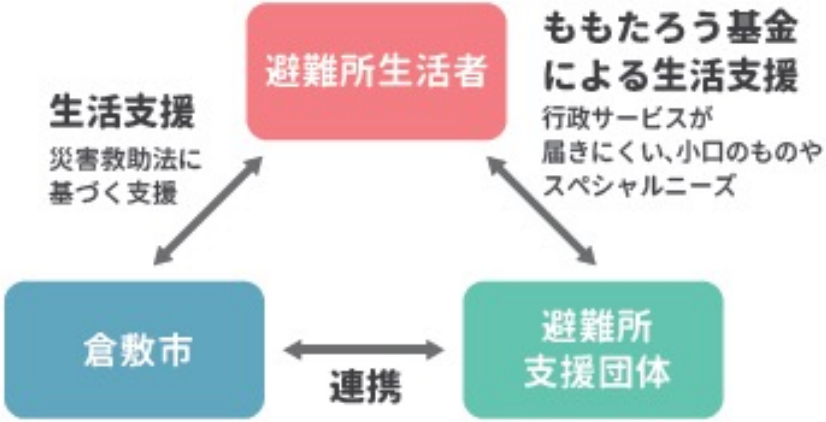
事例02 避難所支援プログラム（緊急物資提供事業）

事業内容

真備の人たちが避難している各避難所への物資提供事業。各避難所のニーズに合わせてきめ細やかで迅速に対応できるよう、特別な支援体制で実施。

サポート内容

倉敷市と連携し、スキーム案を考え各避難所に提案しました。避難所では地域コミュニティ組織、NPO、行政が連携し自治が行われており、そこで協議し独自に物資調達できる仕組みづくりを行いました。



医師会関係者の声

○モデルが構築できました。

・どのように診療をつづけるか見えない状況でしたが、みんつくの助成をモデル事業として医療関係からの支援をうけました。

○必要な機関とつないでもらいました。

（内部関係者、建設業者、行政）

・事業に必要な役割を明確にし、それぞれの団体とつないでもらうとともに、課題とな部分を一緒に解決してもらいました。

倉敷市の声

○避難所運営が円滑になりました。

・災害業務終了後の、職員アンケートでは、
「ももたろう基金を活用できるようになってから、
避難者の個別の要求やニーズに、迅速に対応で
きてすごくよかった」という意見が多数ありました。

○「緊急性」「即時性」「独自性」に対応しやすくなりました。

他助成組織の声

○情報のつなぎ役として

・みんつく経由で団体から申請をもらい情報をとどけてもらいました。

○連携した支援

・合同で助成実施することで、事業規模を拡大
・団体の状況を共有し、助成の可否を決定

運営のポイント
（支援団体向け）

助成設計のポイント

○事業の種類を考える

・緊急対応と復興事業。実施団体への寄り添い

○募集要項は思いを伝えるツール

・100％助成がのぞましい（共通認識をつくる）

○他の取組を活用（つなぐ）する

・他の助成事業とのマッチング

・ボラセンやスマートサプライなどとのマッチング

寄付募集のポイント

○寄付者の思いを第一に考える

・寄付者が気になること、情報伝達の方法を考える（大切なのは集めることより、出すこと活用する事）

・思いの違う寄付は、他につなぐ

○運営コストも考える

・運営の仕組みの検討（平時と同じでいいか）

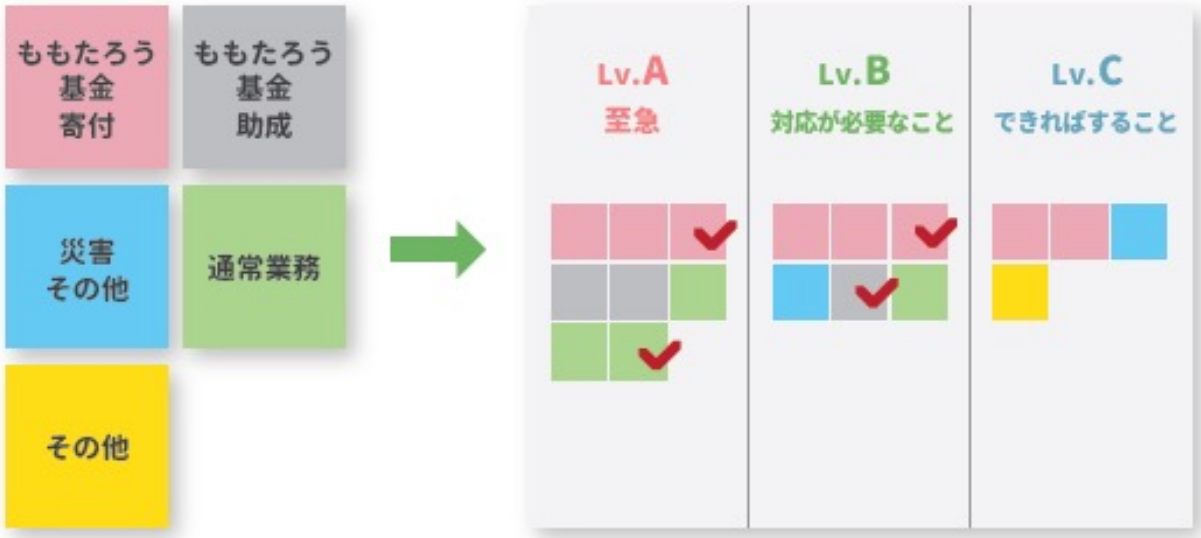
・費用負担の検討（コア支援者との関係性）

プロフェッショナルとしての
責任と覚悟をもつ

タスクチェックとマニュアル化＋休養

ももたろう基金の業務ルール

●緊急時だからこそ、
業務の状況・優先順位を徹底的に見える化！



1. タスクを事業別に色分け

誰でも見れる付箋を使用。オンラインツールはパソコンの設定など環境設定が必要な場合が多いので、誰が関わっても状況が一目でわかるアナログな方法を採用しました。

2. タスクは必ず優先度別に

レベルA（至急）、レベルB（対応が必要なこと）、レベルC（できればすること）の3つのレベルを設定し、何をしないといけないかが常に分かる状態を作り、スタッフができるだけ迷わない環境を作りました。

3. 毎日複数名で確認して運用する

- 完了したタスクは付箋にチェックをいれる
- 朝、昼、夕方の3回、コアスタッフ2名で状況を確認。朝は担当理事も遠隔で参加し、この時に付箋を剥がす

タスク一覧は朝と夕方に2回撮影し
過去の状態を確認できるようにしました。

事業継続の仕組み
（災害後の取組）

事業継続の仕組み

○マニュアルの見直し（作成中）

・どういうケースでどうスタートするか

○OB会の設立（準備中）

・非常時にかかわりやすい仕組みづくり

○医療機関との連携（今後）

・防災訓練をともにする、協定を結ぶなど、個人のつながりが組織のつながりになるよう普段から情報交流をする仕組みを構築していきます。

医療従事者の
皆さんへ

いつもありがとうございます。

○医療は非常時の最前線

・非常時の医療は最前線です。その情報を関係各所に流すことが重要です。

○普段のつながりを意図してつくる

・共通認識をつくるため、非常時に安心して情報を流せる関係性をつくるため、日常でつながり、共通の価値観をつくっていくことが重要です。

私たちの思い

・People are GOOD　!!

意思を持って資源（お金や時間）をつかう
手段と機会の提供

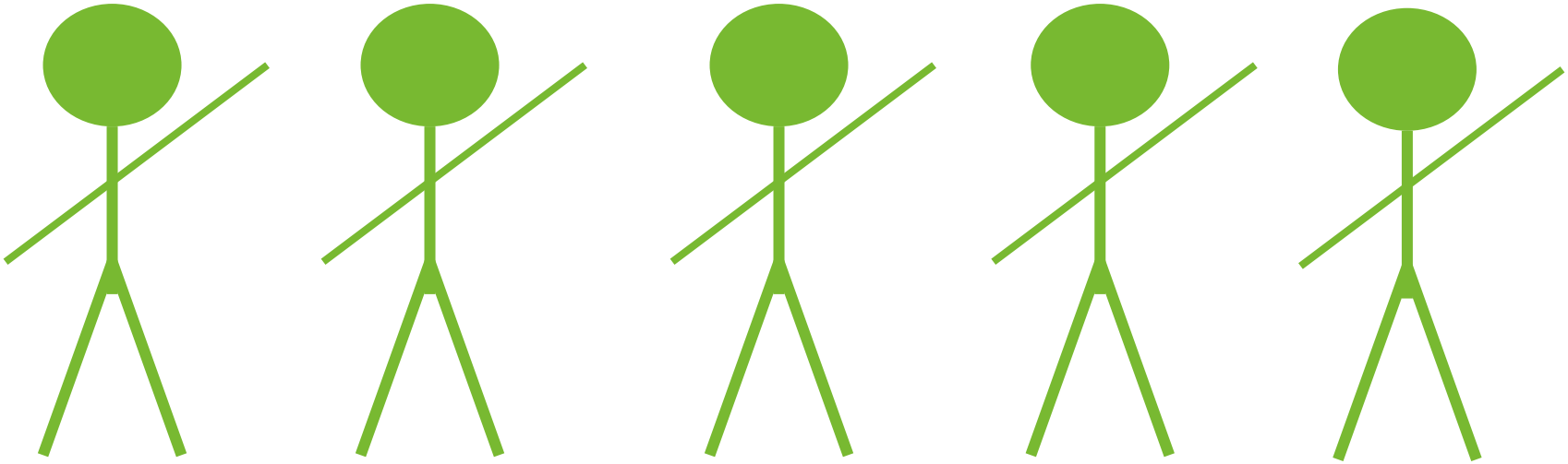
本人が思いをカタチにするお手伝い

ありがとうございました！

ご質問は、以下まで

FB： atsushi.ishida.14

メール：atsushi@mintuku.jp



参考サイト

みんつく財団HP
http://www.mintuku.jp/
ももたろう基金HP
https://www.momotarosaigai.jp/
みんつく寄付アクションサイト
https://www.kifu-action.jp/